

2019

ぶうげん
びりあ
No.3117
月号ホームページ <http://www.hahashouchu.ogasawara.ed.jp/>

母島小中学校にとっての7月1日

校長 新妻 茂

昨年、小笠原諸島は返還50周年を迎えました。1968年（昭和43年）6月に小笠原諸島が日本に返還されましたが、それから遅れること3年あまりの1971年（昭和46年）の秋、一般の人々の本格的母島帰還より2年ほど早く、農業移住者6世帯が母島に渡ってきました。27年間、無人島状態であった母島は、島全体がジャングルさながらであったと聞いています。移住してきた人たちは開墾作業や慣れない労作業に体が悲鳴をあげたり、まだ食べるものの調達が難しかったので飢えに苛まれることもあったとうかがっています。そんなに昔の話ではありません。私が高校生の頃の話です。その後、母島への本格的な帰還が始まり、旧島民や新しい人たちが移住してくるようになります。

返還当時から旧島民の帰還に応じて学校を再建整備する計画が進められ、1972年（昭和47年）に校舎建設が行われます。1973年（昭和48年）4月1日に学校開設準備要員として、林魔弓教頭、長島忠義教諭が小笠原小学校勤務となります。6月27日には校舎の第1期工事が完了します。そして、7月1日、初代校長に林魔弓、長島忠義教諭、高島幸夫事務主事がそれぞれの職に補されることになります。併せて「小笠原村立学校設置条例」が一部改正され母島小学校、母島中学校が設置されました。この7月1日をもって、母島小中学校の開校記念日としています。

7月3日には、第21共勝丸で最初の備品類、教職員用の荷物の搬入が行われました。7月14日には、教材教具等を満載した共勝丸が沖港に再び入港し搬入作業を続けることになります。当時の記録には、「灼熱の太陽は身を焦がし、流れる汗は滝の如し。心あたたまる父母の協力に感謝しつつ作業は順調に進んだ」とあります。

その後、7月28日には、長島教諭が家族を伴って着任したのをはじめとして、8月6日には林校長と高島主事が家族とともに着任します。そして8月25日は赴任職員全員がそろうことになります。

9月1日には、2学期始業式と開校式が行われ、9月5日からは、教科、クラス別授業が開始され、学校として実質的にスタートすることになります。さらっと書いてしまうと大変さが伝わってきませんが、ここに至るまでの関係者や準備に当たった教職員、協力していただいた保護者のみなさんの苦労は察して余るものがあります。

父島の小笠原小学校、小笠原中学校は、それまでのアメリカ式の教育から日本式の教育への転換という困難さがありました。当時の母島へのアクセスは今とは比べようもないくらい大変だったと思います。そんな中、母島では全くの無から学校を立ち上げなければならなかったという別の意味での困難さがありました。

今、母島の児童生徒は恵まれた施設・設備の中で伸び伸びと学校生活を送り、勉強に励んでいます。この7月、ちょっとでも開校当時の頃を想像して欲しいと思っています。幾多の先人の苦労と努力に最大の敬意を表すとともに、感謝の気持ちをもって欲しいと思っています。それとともに、当時の人々の苦労を語り継いでいくことも、今を生きる子供たちには必要なのではと思っています。

『11泊12日』。例年よりも2日長い修学旅行が終わりました。新たなことに触れ感動し、学習したことを確かめ感動した11泊12日でした。多くの学びの場を与えて下さった保護者の皆様、地域の皆様、現地での出会いの数々、当日まで行事を作り上げてくれた先生方に深く感謝申し上げます。

5月28日(火)～5月31日(金)

〈職場訪問・上級学校訪問 5月30日〉

中学3年生4人が自分の進路について考え、それぞれの希望する職場や上級学校に見学に行きました。それぞれの訪問場所ではやる気や作業の丁寧さ、礼儀や明るさなど4人の個性を褒めていただきました。

自らのキャリアプランについて考え、深める貴重な機会となりました。

〈東京散策 5月31日〉

東京散策を実施しました。

事前に計画したコースは『湯島天神→国立科学博物館→東京シティビュー→チームラボプラネッツ』。

電車で1人で乗るのは初めてという生徒もいる中での東京散策。道を間違い、見学地を削ることもありましたが、臨機応変に対応して乗り越えることができました。

6月1日(土)～6月5日(水)

〈京都タクシー行動 6月1日〉

早朝品川駅を出発し、10時前に京都到着。『宇治平等院→醍醐寺→花見小路→錦市場→二条城→鹿苑寺(金閣寺)→龍安寺』と多くの文化遺産を見学してきました。

この日は妙心寺東林院に宿泊し、精進料理とテレビもラジオもない静かな空間で過ごすことができました。



〈座禅・墨絵体験、嵐山散策、演奏会 6月2日〉

朝に座禅体験、そして講話を聴きました。「やりたいことだけやっていると、必要なことしか出来ない人間になる。」松山大耕副住職の言葉が響きました。その後、何百年後に文化遺産になるであろう墨絵を見せていただき、実際に墨絵体験を行いました。夜はウクレレとギターの演奏会。母島との繋がりを強く感じる1日でした。

〈京都班行動 6月3日〉

『八坂神社→知恩院→南禅寺→慈照寺(銀閣寺)→三十三間堂→清水寺』を4人で巡りました。事前学習で調べた場所に実際に行ってみて、見て感じる事ができた1日でした。

〈奈良散策 6月4日〉

『興福寺国宝館→東大寺→法隆寺』と奈良を巡りました。阿修羅像や奈良の大仏、教科書に載っているものを実際に見ることができました。夜は大阪で食事し大阪の食文化に触れました。

〈USJ 6月5日〉

USJを訪れました。今まで体験したことのないアトラクションに触れ驚き興奮し、キャストの動きも見ながら接客について考え、なにより楽しく過ごしていました。

6月6日(木)～6月8日(土)

〈東京グローバルゲートウェイ・劇団四季 6月6日〉

東京グローバルゲートウェイは英語で日常会話を行う施設です。

4人が積極的に話す姿勢に施設の職員も驚いていました。

午後は劇団四季の『アラジン』を見に行きました。初めての演劇の世界に引き込まれていました。

アドラー心理学によると、劣等感とは「他者との比較だけでなく、こうありたいと思う目標と現実の自分とのギャップに直面したときに抱く『みじめさ』『悔しさ』『羨ましさ』『焦り』『不安』『怒り』などを総称したものと定義されています。劣等感をもつことはその人にとって負担になるだけではなく、「目標をもち、よりよく生きようとしている証であり、今の自分を形作っている要因」であるといった考え方もあります。

しかし非建設的な劣等感のパターンになると、その人自身に負担がかかる分、否定的で消極的な言動や対応をしがちです。否定的な対応については3パターンあります。「①劣等感を無理に押し殺そうとする」「②自分を哀れむ材料にする」「③他者を巻き込む」。こうした対応をすることは、さらにその人を追い込む結果にもつながってくる場合があります。

このような劣等感がやってくる1つは親とのやりとりではないでしょうか。テストの結果を見せると、「全然だめじゃないの!」と言われる、そのような言葉はなくても一瞬顔が曇ったり、悲しい顔をするのを目撃する。またサッカー、ピアノ、ダンスなど、習い事でうまくいかないと同じような親の姿を子供は見たりする。このような一瞬の親の反応を子どもは敏感に察する能力をもっていて、“自分はできない人間だ” “大好きな親を悲しませる人間だ” “どうせやっても無駄だ” と劣等感へと変わる。しかしこの子どもが感じる劣等感の正体は実は親自身の劣等感であつたりもします。教育的には「もっと勉強をして、良い成績をとりなさい」といった親の姿勢は大切なことです。しかしその根底には “テストの点数が何点であっても、あなたは私が世界で一番愛している子なのよ!” といいた気持ちや “どれだけ上手くいかなくても私は最後まであなたの味方よ!” といいた言語的・非言語的な親からのメッセージが、子供にとっては大きな安心感となり最終的に踏ん張れるパワーの源となるのではないのでしょうか。そして非建設的な劣等感をもたない心理状態の獲得が、新たな行動や挑戦を生み出し、様々なチャンスを獲得する場面へと導かれる理想的な状態であると思います。

診療所と連携した保健教育

養護教諭

母島小中学校では診療所と連携し、保健教育の推進に取り組んでいます。6月の学校公開では、小学生を対象に、学校歯科医・歯科衛生士さんによる「ブラッシング指導」をおこないまし



た。かむことの大切さや、むし歯・歯周病の健康被害について学び、歯垢の染め出しをおこなって日々の歯磨きを見直しました。指導後の歯磨きタイム（昼食後の歯磨きの時間）では、より一層、丁寧に歯を磨く子供たちの姿がみられました。

同日、中学生は、診療所の看護師さんによる「心肺蘇生法講習」をおこないました。海に囲まれ、水の事故が身近に潜む、母島。もしもの時に自分自身や周りの人の大切な命を守れるよう、真剣にAEDの操作や心臓マッサージの実技演習に取り組む姿が、印象的でした。

日頃、診療所でお世話になっている方々から専門的な知識を学ぶことによって、子供たちは健康への興味・関心が高まるようです。これからも診療所の方々の協力を得ながら、保健教育の質の向上を目指していけたらと思います。

7月の生活指導

生活目標

「1学期を振り返り、
夏休みの目標を立てよう」

- ・1学期の反省をして、新たな目標を立てよう。
- ・夏休みの計画をしっかりと立てよう。
- ・日頃できないことに挑戦しよう。

安全指導 8日(月)

「安全に気を付けた遊び方」が重点目標です。

夏休みの前に、つりや磯遊び、海水浴、花火など楽しい遊びの中に潜む危険性について考えさせ、約束を守り、安全に行動できるように指導します。

避難訓練 5日(金)

地震が発生した場合を想定した避難訓練を各学級で行います。身近な場所の危険な箇所について考え話し合わせます。「危険探し」の活動を通して、突然の強い揺れから、瞬時に自分で命を守る判断ができることを目標に行っていきます。

平島校外学習(小4,5)・移動教室(中1)について

6月に予定されていましたが、平島の校外学習(小4,5)と移動教室(中1)は悪天候のため延期となりました。延期の日程は次のようになっています。

校外学習(小4,5)→7月9日(火)

移動教室(中1) →9月実施予定

夏休みの図書室開放

本年度の母島小中学校夏季休業中の図書室一般開放は7月22日(月)からとなります。

開放期間：7月22日(月)～8月2日(金)
8月13日(火)～8月30日(金)
(土、日は除く)

※8月5日(月)～9日(金)は学校閉庁日でお休みとします。

開放時間：午前9時00分～午後12時00分
午後1時30分～午後4時30分

※上履きをご持参ください。

小学校サマースクール

期間 8月26日(月)～8月29日(木)

登校 午前8時25分 小学校

時間 午前8時30分～9時30分 小学校

夏季水泳教室

前期 7月22日(月)～7月25日(木)

登校 午前8時25分 **下校** 午前10時00分

後期 8月26日(月)～8月29日(木)

登校 午前9時45分 **下校** 午前11時20分

※時間に余裕をもって、安全に登校するようにしてください。前期と後期で登校時間が異なります。ご確認よろしく願いいたします。

7月の主な行事予定

			16	火	朝礼(保健指導)
1	月	中朝礼 保護者会(中)	17	水	大掃除・周辺美化 デザートの日
2	火	父母学習交流会終(小4～6)	18	木	
3	水		19	金	終業式
4	木	東京都学力調査(小5,中2)	20	土	
5	金	避難訓練 海水泳	21	日	
6	土		22	月	夏季休業日始 夏季水泳教室始
7	日		23	火	
8	月	朝礼(安全指導) 保護者会(小1,2) SC在島～10日	24	水	
9	火	行事前検診(中) 平島校外学習(小4,5) SC在島	25	木	夏季水泳教室終
10	水	父母学習交流会始(中) 保護者会(小3) SC在島	26	金	南アルプス市親善交流始
11	木	ウコッケイ教室(小1,2)	27	土	
12	金	父母学習交流会終(中)	28	日	
13	土		29	月	南アルプス市親善交流終
14	日		30	火	
15	月	海の日	31	水	